

## 「生徒指導の実践上の視点」を踏まえた授業づくりのためのチェックリスト を効果的に活用するために

秋田県教育庁南教育事務所

学習指導要領（平成29年告示）解説総則編の「生徒指導の充実」において、「生徒指導は学習指導と並んで重要な意義をもつものであり、また、両者は相互に深く関わっている」、「学習指導と関連付けながら、その一層の充実を図っていくことが必要である」と示されています。

「資質・能力の三つの柱」を育成するために、生徒指導と学習指導を相互に関連付けて、毎日の授業を「生徒指導の実践上の視点」で捉え直すことが効果的です。

また、生徒指導提要（令和4年12月）の46ページ、「教科の指導と生徒指導の一体化」には、「教科の指導と生徒指導を一体化させた授業づくりは、生徒指導の実践上の視点である、自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成を意識した実践に他なりません」と示されています。それぞれの実践上の視点と授業づくりを関連させる際の留意点は次のとおりです。

### ○ 自己存在感の感受を促進する授業づくり

児童生徒が「自分も一人の人間として大切にされている」と感じ、自己肯定感や自己有用感を育む工夫を行うことが大切です。

### ○ 共感的な人間関係を育成する授業づくり

互いに認め合い、励まし合い、支え合うことのできる学習集団づくりを促進していくことが大切です。

### ○ 自己決定の場を提供する授業づくり

児童生徒が自ら考え、選択し、決定する力を育てるため、教員が児童生徒に意見発表の場を提供したり、児童生徒間の対話や議論の場を設定したりするなどの取組を積極的に進めることが大切です。

### ○ 安全・安心な風土を醸成する授業づくり

児童生徒の個性が尊重され、安全にかつ安心して学習できるようにするため、学級集団が「心の居場所」となるように努めることが大切です。

南教育事務所では、「教科の指導と生徒指導の一体化」に向けて、生徒指導の実践上の視点ごとのチェックリストを別紙のとおり作成いたしました。本チェックリストは、先生方による次のような活用を想定しております。

### 1 授業を見合って相互評価を行う際に活用する。

校内での授業参観の際に、チェックリストを基に相互評価を行い、互いの授業のよさや改善点に気付いたり、それらを伝え合ったりする。

### 2 校内研修（生徒指導訪問を含む）の際の資料として活用する。

先生方の自己評価の平均値から、学校としての課題を見だし、その解決に向けた協議を行う。